



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

# NEWS LETTER

特集

みんなでつくる ワークショップで  
体験・体感  
ライブミュージアム!

vol. **28** | 季刊 **夏**  
2013





# みんなでつくる ライブミュージアム!

## ワークショップで体験・体感

**夏** がきました。大人気が  
「どろの遊園地」の季節です。  
「もっと気持ちよく遊んで  
もらいたい!」と、今年も念  
願の更衣室&シャワー設備  
を新設しました。  
「専門家に教えてもらい  
ながら、みんなで一緒につ  
くろうよ!」と、ワークショ  
ップで完成させてしまうの  
がライブミュージアム流。  
指導をおおいだしたのは、「土・  
どろんこ館」を設計した建  
築家の日置拓人さん、館内  
の家具を制作した木工職人

の笠山拓也さんです。  
日置さんが設計してくれ  
た更衣室は、「和傘」のイメ  
ージ。普段はベンチとして  
使えるよう、構造的にもし  
っかりした建築です。「み  
なでつくる楽しさを味わい  
ましょう!」。

「建築現場で大切なのは、  
なにより安全に作業するこ  
と」と、まずはラジオ体操  
から。  
5月から6月にかけての  
12日間、参加者延べ148  
人による建築ワークショップ  
の始まりです。

INAXライブミュージアムは、東日本大震災の復興を支援しています。

# 01 [特集] みんなでつくる ライブミュージアム! —ワークショップで体験・体感

- LIVE SCHEDULE**
- これからの催し
  - 06** ワークショップ  
どろの遊園地2013～子どもは遊びの天才だ～  
企画展「集落が育てる設計図—アフリカ・インドネシアの住まい」展  
フォトコンテスト2013
  - 07** 企画展「中谷宇吉郎の森羅万象帖」展  
企画展「天地水土の輝き～ラスタ-彩タイル」展  
光るどろだんご大会2013

- LIVE REPORT**
- 開催報告
  - 08** 第120回建築家フォーラム  
2012年度JIA新人賞 受賞作を語る
  - 09** 「2013年日本建築学会賞(業績)」を受賞  
テラコッタパークのライトアップ  
ゴールデンウィーク特別イベント みんなでシャボン玉を飛ばそう

# CONTENTS

INAXライブミュージアム  
NEWS LETTER

vol.28 季刊 夏  
2013

表紙写真  
友だちが、またその友だち  
を誘って、4組のご家族で  
来館。光るどろだんご、モ  
ザイクアートと何をするの  
もにぎやかで、ライブミュ  
ージアム、思いっきり楽し  
んでいただけようです。  
(2013.5.26)  
撮影:加藤弘一

## 常滑から\*

27

### 古常滑の土



ここ常滑は日本六古窯\*の一つ。日本最古  
で最大の窯数を有しているやきもの街で  
すので、常滑に住んだら是非陶芸を楽しみた  
いと思っておりました。幸運にも昨年末に  
常滑勤務となり、念願の常滑の土で焼物をつ  
くりたいとお願いしたところ、常滑ではなく  
信楽の土で焼いていると言われました。常  
滑焼は地元の土を使うのが決まりかと思っ  
ていましたが、逆にそうしている陶芸家の方  
は少ないと聞き、とても驚きました。

先日、地元の中学校から、美術の時間にテ  
ラコッタのお面をつくりたいというご相談  
をいただき、私は即、常滑の土でつくること  
を提案しようと思立ちました。ちょうど  
昨年末に古常滑の土が出たという報道が記  
憶にあり、早速その土を見に「ここな焼協  
同組合」を訪ねたところ、試験焼きをしたも  
のが所狭しと並んでいました。灰色や微妙  
な赤黄色に焼けているのを見て、常滑の土の  
繊細さ、奥深さを感じた一瞬でした。

この秋に地元中学校の生徒が常滑の土で  
つくるテラコッタのお面は、どのように焼け  
るのか。生徒たちはこの土でどのように表  
現してくれるのか。今からとても楽しみです。

住宮 和夫

\*中世から明治にかけて続く日本の陶磁器業一瀬戸、常滑、  
越前(信楽)、萩(備前)の3つ。

※INAX創業の地・常滑の人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。



# 1 墨付け・刻み

5/11[土]



「木って芯のあるところは固いんだ」。体験してわかること、感じるものがいっぱい。「道具の使い方は、説明するより現場でどンドン体験した方がいいね」。

**建** 築ワークショップ初日。まずは、建設に必要な、柱や梁など構造材の準備です。作業場に積まれたスギの木に、図面通りに印をつけ、のこぎりやみで刻んでいきます。参加者は「のこぎり？技術家庭の時間で少し触ったかな」と言う5人。

12角形屋根の更衣室は、このワークショップ、真剣勝負です。「軒の広い方で着替えがしやすいように」と柱が少しずらしてあります。そのため、全ての部材の寸法が異なります。「同じ形のもの何本も加工するより、緊張感があつてつくり甲斐があると思います」と、にっこりする笠山さん。



棟上げ完了! 傘の形に注目!



# 2 木組み・組立て・棟上式

5/12[日]

この日の目標は、女子用更衣室の「棟上げ」。そのために、同じ番号がふられた柱、梁、方杖、垂木をセットにして接合したものを、12組つくりまします。部材をそろえる人、接合前の最終チェックをする人、役割分担も自然にできて共同作業がサマになってきました。「僕らが指示出しするのではなく、自分で考えて動く、その動きが合わさってできあがっていく、この感じがいいんですよ」と、笠山さん。



- 1 初めての電動ネジ機。「まっすくにね」お見事、拍手〜。
- 2 部材が図面通りの寸法で仕上がっているか、慎重にチェック。
- 3 木組みが一本ずつ立ち上がっていきます。

# 3 横垂木取り付け

3 5/19[日]

**前** 日、男子用更衣室の棟上げが終わり、今日は2チームに分かれて横垂木を取り付けていきます。あいにくの曇り空に、雨を気にしながら作業開始。

男子用チームの棟梁は日置さん。一本一本、確実に取り付けていきます。ところが、8割ほどできたところで、「寸法が合わない」と、やり直すことに。「ビスを打ち直すくらいの微妙なズレなんです」と参加者。微調整しながらやり直して、ようやく外周が完成しました。

一方、笠山さん率いる女子用チームは、大胆にビス



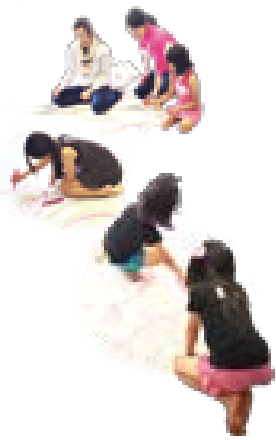
- 1 「微妙なズレなんだけど…」男子用チーム。
- 2 ビスをガンガン打ち込む女子用チーム。3時ごろ雨が降ってきましたが、予定の作業は無事終了しました。



**4** 5/26[日]

**カーテンデザイン絵付け**

「どろの遊園地」の主役となる子どもたちに参加してもらったのが、今日のワークショップの目的です。更衣室のカーテンとなる幅8mの布地に、男子、女子に分かれてツタの模様を描いてもらいました。ツタがどんどん成長するイメージで、体を使って大きくのびやかに。友だちが描いた模様につなげて、下から上へ、もう描くところがなくなるくらい勢いで取り組んでくれました。

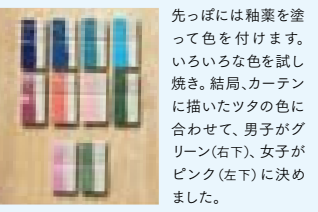


# 屋根のテラコッタづくり

更衣室の屋根のてっぺんに取り付けるテラコッタは、ものづくり工房で制作。12枚の屋根を寄せた形の型をつくり、そこに土を丁寧に押し当ててつくりまします。厚さは約3cm、重さは約10kg。型から出したら、ヘラで表面をなめらかに。仕上がりの表情に影響するので丹念に、エッジをきれいに立たせて…慎重に作業しました。



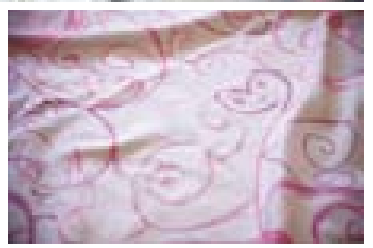
実際に使うのは2個ですが、予備もふくめて6個制作。



先っぽには釉薬を塗って色を付けます。いろいろな色を試し焼き。結局、カーテンに描いたツタの色に合わせて、男子がグリーン(右下)、女子がピンク(左下)に決めました。



男の子はグリーン、女の子はピンク。みんなで「ツタ」をどんどん延ばしました。



シャワーモザイクタイル張り・敷石



を重ねることに、参加人数が増え、今日の参加者は15人。  
シャワー設備の壁面にモザイクタイルを張る作業と、更衣室の床を支える礎石の敷設作業です。いずれも、工事の基準となる線を印していく「墨出し」から。「この作業がいちばん大事」と言うのは、指導に来

てくれたタイル専門校の古川先生。タイル施工の基礎から、丁寧に教えていただきました。タイル好きの参加者は、プロの技に驚いた



水平と垂直を測り、「墨つぼ」という道具を使って線を描きます。罫で外装用の接着剤を厚みが均一になるように塗って、タイルの張り付け。「ハァー、端がむずかしい〜」

こんなふうに見えるんだ〜  
(水平を測る機械)



り感心したりしながら、満  
足な様子。  
礎石敷設チームも図面を  
見ながら「墨出し」。全部  
の寸法が違うのでややこし  
いのですが、慣れてきたの  
か、意外に短時間でクリア。

以後は、印をしたところに  
クギを打って、糸を張って  
礎石の位置を出し、穴を掘  
置いてモルタルで固める  
と、体力勝負の作業。お疲  
れさまでした！

「大学で習ったことが体験できた」と建築を学ぶ女子大生に、タイルが大好きという女性。毎年どろ田イベントに参加してくれる男性は、「東京から飛行機で来ました。一緒に汗を流します。」

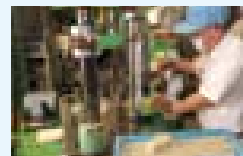
リスマカルに、よいしょ！  
(モルタルづくり)



シャワー  
モザイクタイルづくり

シャワー設備のタイルは、LIXIL常滑東工場のかつての応接棟外壁に使われていた60年前のタイルを再利用、足りない分は再現することにしました。

「紫色のやきものってあまり見たことがないでしょう？色を出すのがむずかしいんです」と、担当した日本モザイクタイルの伊奈幸洋さん。試し焼きを繰り返して、色を近づけていきました。



釉薬は使わず、土に顔料を練り込んで色を出す製法でタイルをつくりました。



「窯の中の置く位置によっても、焼成でこんなに色が変わってくるんです。」

デッキ工事・  
シャワー敷石工事

いよいよ作業も大詰め。「普段できないことに挑戦したい」「将来建築の仕事がしたい」と意欲満々の女性&中学生など、多彩な顔ぶれの参加者が総勢18人。この日のメイン、デッキ工事はかなりむずかしい作業でしたが、墨付け、カット、断面塗装、はめ込みと、いつしか自然に役割分担ができて、「みんなの動きが良くて驚いた」と、笠山さん。

「あっ、サイズが違う」「こ  
っちの板を使う」。現場で



1 シャワー設備は、敷石の目地を入れる作業。「罫は少し斜めにした方がいいね」。先生のアドバイスでコツをつかんで。  
2 デッキの板は厚さ4センチの米スギ。大ききの違う4枚の板をはめ込むのが作業の要。少しずつデッキが完成形に近づくと、作業にもいっそう熱が入ります。



生じた問題は、臨機応変にみんなて解決。知恵を出し合って乗り越えるのがワークショップの醍醐味です。みなさんのやる気で、デッキは無事完成しました。



植栽・整地・完成式

建 物ができて完成、ではありません。昨日は、降った雨がスムーズに排水されるように、土地の傾斜を測って整地し、芝を張り陶板を埋め込みました。「今までで一番たいへんだった」という声も。今日は、ライブミュージアムの緑を守っている庭師の岡

さんの指導で植栽に挑戦、庭木を整えました。

更衣室は、普段はベンチとして活躍します。心地よさを確かめるようにデッキをつくろいだ後は、いよいよ完成式。「もう終わっちゃうの？まだ続いてほしいって気持ち」。

テラコッタをみんなでリ



1 屋根のてっぺんにテラコッタをつけて、完成！思わず拍手！  
2 参加者はリポーターも多く、最終日は28人。12日間全出席の人も。更衣室兼ベンチの名前は、参加者の投票で「こかげかあさ」に決まりました。  
3 タイルの古川先生とシャワー設備の前で。女性の参加者も多く、笑い声がよく聞こえました。



「どう使われるか、見に来なくちゃ」。はい、一緒に育てていってくださいね。

